

ホソエカエデ *Acer capillipes* Maxim.

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 1、総点 12。温帯性の樹木で、愛知県では個体数が少なく、存続の基盤が脆弱である。

【形態】

落葉性の小高木ないし高木。高さ 10~15m になる。樹皮は緑色で黒斑がある。葉は対生し、有花枝に 1 対、無花枝に 1~4 対つき、長さ 4~8cm の柄がある。葉身は 5 角形~卵状 5 角形、3~5 浅裂し、長さ 8~15cm、幅 6~12cm、先端は尾状鋭尖頭、基部は浅心形から円形、辺縁には不ぞろいの重鋸歯がある。花期は 5 月、花序は総状で有花枝に頂生し、長さ 5~10cm で下垂し、雌雄異株、花は一つの花序に 20~50 個つき、淡黄色である。果実は 2 つの分果に分かれ、それぞれの分果は長さ 1.3~1.8cm、翼は鈍角に開く。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：2 豊根（芹沢 87495, 2011-10-8）、3 東栄（小林 34193, 1990-5-30）、8 鳳来北東部（小林 62265, 1997-9-13）。7 設楽東部（鹿島山）にもあるという（小林 2006）。

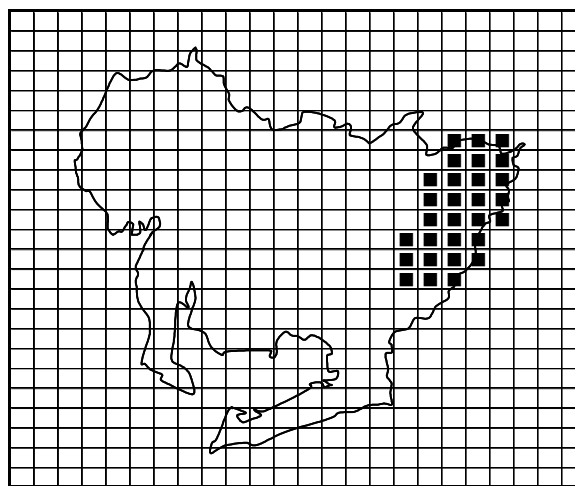
【国内の分布】

主として本州中部（福島県以南）に分布し、近畿地方、四国にも稀に生育する。長野県まで行けば普通に見られる種類である。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

一般的には山地の落葉広葉樹林内に生育するが、愛知県では豊根以外は岩崖地に生育している。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩	○			
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

鳳来寺山系などの岩崖地に点在するが、個体数は極めて少ない。自生地は特に開発が想定されるような場所ではないが、個体数が少ないため、希少種であることを意識しない伐採等により失われるおそれがある。

【保全上の留意点】

愛知県では希少な樹木であることを認識する必要がある。

【特記事項】

ウリハダカエデに似ているが、葉柄が長く通常紅色を帯びること、葉裏に毛が少なく、脈腋に小膜があることなどで区別できる。

【引用文献】

小林元男. 2006. 北設楽の植物 p.58. 愛知県林業試験研究推進協議会, 新城.

【関連文献】

保木本 I p.297, 平木本 II p.12, 平新版 3 p.291.